

第3回若葉区地域福祉計画推進協議会会議録

日 時：平成22年12月11日（土）
午前9時30分から12時10分
場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室
委員定数：33名、出席委員数：25名
事務局：9名、傍聴人：1名

【1】次第

- 1 開会
- 2 保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題（1） 区地域福祉計画素案について
（2） 第2回運営企画委員会について
（3） 地域福祉計画市民説明会の報告について
（4） その他
- 4 閉会

【2】議事の概要

- （1） 区地域福祉計画素案について
区地域福祉計画素案の変更点について説明をした。
- （2） 第2回運営企画委員会について
次期計画及び次年度以降の計画推進に向けての仕組みづくりを検討する第2回運営企画委員会の会議報告を行った。
- （3） 地域福祉計画市民説明会の報告について
10月31日に開催した地域福祉計画市民説明会の報告と第2期千葉市地域福祉計画案について説明をした。
- （4） その他
次回第4回の開催を平成23年2月26日（土）と決定した。

【3】発言要旨

【議題1 区地域福祉計画素案について】

- | | |
|--------|---|
| （事務局） | 10月2日に開催した第2回若葉区地域福祉計画推進協議会の場で頂いた皆さんからのご意見をもとに修正した箇所を説明する。まず1点目は、13ページの中段の「グランドゴルフ」を「グラウンドゴルフ」に変更した。2点目は、41ページの事例名を所管課である総合防災課からの要望で「平成22年度災害時要援護者支援体制構築モデル事業」に変更した。3点目は、上段の6行目の「コミュニケーションレス」を「コミュニケーションの希薄化」に変更した。4点目は、高齢者の介護や福祉に関する相談窓口の「あんしんケアセンター」を「千葉市あんしんケアセンター」に変更した。5点目は、57ページの上段のタイトルを「ふれあいワーク&ショップの創設」から「ふれあいショップの創設」に変更した。6点目は、70ページの②「社会福祉協議会住民会員加入世帯数」を「社会福祉協議会住民会員加入世帯率」に変更した。7点目は、71ページの④ボランティア登録数に「千葉市社会福祉協議会に登録しているボランティア」と加筆した。8点目は、78ページ・82ページの地域包括支援センターに「千葉市」を加筆した。9点目は、84ページ・85ページの金子委員の名前の訂正をした。 |
| （藤森委員） | ちば美香苑の住所と電話番号が12月に移転し変更したが変わっていない。 |

- (事務局) 最新のものに変更する。
- (金谷委員) 66ページの挿絵の diversity はよい言葉なので入れておいてほしい。
- (事務局) 挿絵は再度検討する。
- (金谷委員) 区地域福祉計画では「支えあう」と平仮名表記で、市地域福祉計画では「支え合う」と漢字表記なので統一した方がよい。
- (事務局) 千葉市地域福祉課と後日相談する。

【議題2 第2回運営企画委員会について】

- (委員長) 別紙「第2回運営企画委員会議事録」について説明。

【議題3 地域福祉計画市民説明会の報告—第2期千葉市地域福祉計画案について—】

- (事務局) 10月31日に市民説明会を行った。25名の参加があった。チラシを配付して積極的に宣伝するとしていたが、他区と状況を合わせ、市政だよりを見た方を参加対象とした。4月以降に地域福祉計画を積極的に市民に広報したい。(別紙「平成22年度千葉市地域福祉計画市民説明会議事要旨」について説明)
- (事務局) (別紙「第2期千葉市地域福祉計画(案)の概要」について説明)
- (委員長) 千葉市地域福祉計画の8ページに数年先を予測したということを記載してほしい。10年先には今より人口は減少しているはずである。福祉にお金を使う余裕がなくなっているはずである。その時には今まで以上に助けあい・支えあいが必要になってくる。
- (古内委員) 千葉市地域福祉計画の内容はとてもよい。自治会でも高齢者を今後どうするか考えていかないといけない。個人情報に関しては役所同士の連携をしっかりとしてほしい。個人情報には民生委員も苦労している。
- (大嶋副委員長) 個人情報に関しては私もそのように思っているが、社会全体の個人情報の方向性を変えるのは難しい。
- (委員長) これも来年度に具体的につめていきたい。
- (藤森委員) 市民説明会にはオブザーバーとして出席した。大事な会議だと思ったから。千葉市側はあの結果で成功したと思っているのか。予想通り参加者が少なかった。何のための説明会だったのか。これからどうするつもりなのか。
- (事務局) 今回は計画素案の市民説明会であった。広報は計画策定後の別の機会の各団体にしていくことを考えた方がいいと思った。結果的に参加者が少ないのは想定外であった。40名は参加すると思った。広報を「市政だより」だけにしてしまったのは反省している。
- (委員長) 「市政だより」の市民説明会の記事を一般住民は見えていないだろう。興味が無いので素通りしている。自分では10名に声掛けをした。町内自治会にも広報しきれなかった。地区部会からも広報しなかった。これでは定着しない。
- (金子委員) 市民説明はどうであったかという結論を出すべきである。参加者の詳細や意見について今日議論すると思った。何人が「市政だより」を見たのか。未だに地域福祉計画を知らない人もいる。もっと真剣に考えていかないといけない。参加者の分析をしてほしい。市民説明会当日に参加者から後日提出の意見を募ったがその報告をしてほしい。
- (事務局) 10月30日に美浜区で7名、中央区で14名の参加であった。台風だったため参加者が少なかったものと予想される。10月31日は若葉区で25名、稲毛区で16名だった。11月13日は花見川区で36名、緑区で13名だった。広報の仕方として「市政だより」、「ホームページ」で行なった。参加者を増やすのであれば強引に引っ張ってこないといけないと意見があり反省している。PRが足りなかった。市民説明会で多かった意見としては、担い手の確保と自治会との連携についてである。自治会を所管している課の地域振興課や

- 市民自治推進課など、あらゆる部署と連携し取り掛かっていきたいと考えている。
- (大嶋副委員長) 広報する手段を尽くしていないと以前から意見が出ていた。市役所も何年も前から分かっていたはずである。役所の文化としか思えない。市民説明会をしたという実績を作りたいだけである。
- (金谷委員) 市民説明会の男女構成比や年齢を教えてほしい。
- (金子委員) 千葉市地域福祉計画の10ページのとおりにしてほしい。「推進協の委員以外の多くの市民の意見を反映する」と書いてある。
- (事務局) 市民説明会の参加者が少なかったという事実、また広報の仕方に原因があり、事前の区推進協の意見を活かさなかったことの反省をしている。
- (委員長) 反省しても解決できない。
- (事務局) 市民説明会後に意見書として4名からいただいている。簡単に紹介したい。参加者の分析はしていないが、最初の方は地域福祉活動の経験者である。福祉活動をしている人は限られている。ボランティアが増えることは考えられないとのこと。2人目は藤森委員からである。先ほど委員からいただいた意見どおりだが市民説明会の広報についてのお叱りである。3人目は、地域福祉計画の内容は素晴らしいが具体化するにはどうしたらよいのかということである。4人目は女性のボランティア活動者で、活動拠点についての意見である。空き店舗を無償で借りるような仕組みを構築したり、学校の余裕教室を活かせないかということである。
- (金子委員) 私の意見は高齢福祉課に提出したはずである。確認してほしい。
- (委員長) 各委員に議事録を郵送する際に市民説明会後に出た意見書もまとめて送ってほしい。

5分間休憩

- (山内委員) 行政や社協など、各セクションが連携して進めていかないといけない。
- (委員長) これからどうするのが主題である。推進協の役割を考えていかないといけない。皆さんの意見を聞きたい。
- (奥田委員) 計画策定前のフォーラムは区を4つに分けた。市民説明会をして計画を普及させていくのであればもう少し細やかにやっていくべきである。
- (柳原委員) 市民説明会には参加できなかったが、参加者の少なさに驚いている。社協地区部会を使ったほうが人は集まるはずである。中学校区単位で市民説明会をやればよい。
- (野澤委員) 参加者が少ないことは想定できた。これからのことを考えると、自助・共助・公助の中の共助を進めるのは誰であるのか。一般人は共助を進める中心にならない。地区部会や自治会や民生委員が中心になる。その方たちに説明しないと進んでいかない。役員をやれば高齢者を助けるシステムが今必要だということはある。いかに実施していくかである。
- (金谷委員) 推進協のあり方論もあるが、推進協は知的集団だと思っている。実戦部隊ではない。市民説明会は推進協が主体的に動いたイベントだと思った。100名を目標としていたが、センター長は40名を目標にしていた模様。動員をかけた理由は何ぞなのか。原因を追究しないと始まらない。
- (事務局) 市民説明会は推進協が主体的に行なったイベントではなく、行政が主体で行なったイベントである。これから推進協が主体になってPRするかである。団体への広報についてであるが、民生委員については全体集会があったのでそこで説明した。地区部会については、役員会が今月あるのでそこで説明する。区連協については来年2月に説明する。金子委員の意見について漏れてしまった

- ことはこちらの不手際で申し訳なかった。
- (金谷委員) こちらが憤っているのがナンセンスだということがよく分かった。市民説明会の参加者が何名であろうと推進協で議論するテーマではないのだということが事務局の考えであると感じた。
- (事務局) 市民説明会が低調に終わったのはこちらに責任があるということである。
- (野澤委員) 金谷委員からこの協議会は知的集団であり、実戦部隊ではないという意見が出たが見解を統一してほしい。
- (事務局) 知識集団だと思っていない。学者は一人もいない。皆さんは地域で活躍している方たちである。大学の先生は一人もいない。
- (金谷委員) 要綱に戻ってほしい。
- (事務局) 要綱にはプラットフォームと書いてある。皆がこれから何をしたいのか議論し、その結果が要綱に抵触するようであれば地域福祉課にもっていきける。具体的に何をしたいのか。今の段階では現要綱に問題はないと思う。来年度は広報普及がかなりなされると思う。その時に要綱から逸脱するのであれば、その時の議論である。
- (野澤委員) 実施部隊でないのであれば、それでいい。
- (委員長) 世の中にこの計画を定着させるために推進協がある。市民説明会をみても明らかである。市はこの要綱で問題ないという解釈である。
- (金子委員) 要綱を改正すればいい。解釈の違いが出てくるのが問題である。推進協がこの計画を推進するためには実践の役を担うべきである。所掌事務に(5)を新設し、「その他、計画を推進する事項を所掌する」と入れるべきである。今のままでは実践部隊ではない。調整ではだめである。
- (事務局) (5)が必要であれば地域福祉課にもっていきたい。
- (委員長) この議論は何度もしてきた。市はこの要綱で活動実施の可能性をもっていると言う。実戦部隊とはっきり書いた方がいい。
- (金子委員) 「第1条の趣旨を具現・実現するため」と書いてもいい。
- (委員長) これは若葉区だけの問題ではない。6区の要綱は全て同じである。市全体でこの見解を出していきたい。
- (藤森委員) これらを実際に進めるにあたって、委員長やセンター長に確認したい。従来の社協だけでは進まないで、自治会も入れて地域振興課との協力体制が必要だと言われてきている。具体的に話は進んでいるのか。
- (委員長) 先ほどセンター長が説明したスケジュールは既に決まっている。しかし、これだけで理解が進むとは思っていない。別に説明する機会を設けないと絵に描いた餅になってしまう。
- (事務局) 地域振興課には説明しているが、地域振興課が入ってくるわけではない。保健福祉センターが地域福祉を進めることになっている。広報・普及などの面で、地域振興課と連携はしていく。
- (藤森委員) 市の地域振興課との連携はどうなっているのか。
- (事務局) 市では地域振興課との連携は必要だと感じているが、現状ではまだ何もしていない。昨年度勉強会をしたが現在は休止している。市地域振興課にあったコミュニティ係が今年度から市民総務課に異動し、さらに新しく市民自治推進課もできている。コミュニティづくりを進める係が複数にまたがっている。具体的にはこれから連携をとることになる。
- (金子委員) 市地域福祉計画の19ページの「様々な組織・団体等への働きかけ」の3行を声に出して読んでほしい。またセンター長ご自身がどう考えているか答えてほしい。
- (委員長) 庁内関係各課とは、まず保健福祉局の関係各課である。地域福祉に関係する課は保健福祉局内外に様々あるのでそこと連携をする。局外だと地域福祉の理

解が無いところもあるので、地域福祉の観点を我々が関係各課にアプローチしたい。また、特に地域福祉を推進している社協とは積極的に連携していきたい。千葉市では社協を地域福祉課が所管している。また現在、社協職員が1名地域福祉課に出向してきている。自治会、ボランティア団体へは関係各課と連携し直接説明していきたい。

(委員長) 具体的なやり方を今後提起していきたい。地域振興課をどう動かすかということは具体的な策をもっていかないといけない。推進協が各町内自治会に説明しに行ってもういいと思う。本日のまとめとして、『若葉区推進協としては市民説明会の低調な結果は非常に残念である。現行の地域福祉計画が浸透していなかったことと同様の背景であると痛感している。これは千葉市全体の問題でもある。推進協として新しい計画が定着するための役割を痛感すると同時に具体的な活動に入り込んでいきたい』と総括したい。

(藤森委員) 基本的にはそれでいいが、推進協が地域にPRするというアクションを決めたことは1回もない。PR不足は当たり前である。

(委員長) 少なくとも今まで「推進協だより」を各町内自治会にPRしている事実はある。

(藤森委員) 推進協がだらしがないからPRできていないわけではない。PRする方法を決めてない。

(委員長) 決めてやることではない。

(大嶋副委員長) 今後どういうステップで推進協がやるかである。

(藤森委員) 地域振興課から指示がないから動けないと考えている自治会長がいる。

(事務局) 地域振興課の指示があるかないかは関係ないと思う。地域振興課が何かやればどうかなるとは考えていない。

(委員長) この議論はここで終わりにしたい。この会議の議事録は他区も確認するので先ほどのまとめを若葉区の市民説明会の低調を受けての見解としたい。

(事務局) 第4回推進協は2月26日(土)に開催したい。これから区地域福祉計画のパブリックコメントの手続きをはじめ。パブリックコメントの期間は、1月15日から2月14日の一ヶ月を予定している。一般市民の声をまとめて最終案の決定となる。

12時10分をもって第3回若葉区地域福祉推進協議会は散会。

会議録署名人 委員長 武 孝夫

副委員長 大嶋 昭

副委員長 猪野 寛